



ロボット支援手術 **(ダヴィンチ)** 100症例達成のご挨拶

外科代表部長 **藍原 龍介**

ダヴィンチ手術施行例が100例の節目に到達しました。現在までの経過を振り返るとともに、今後の展望を述べたいと思います。

ダヴィンチは令和4年12月25日に搬入され、令和5年2月に直腸癌に対して初症例を施行しました。以後、順調に症例を重ね、令和6年3月に消化器外科症例のみで100症例の節目に到達いたしました。ダヴィンチの導入・運用は外科医師のみでは困難であり、多くの部門（麻酔科医師、看護師、臨床工学技士、広報室）との連携が求められます。約1年という短期間で100症例に到達出来た事に、この場をお借りして関係各位に改めて感謝を申し上げます。

現在、ダヴィンチは消化器外科領域の主要臓器の手術に対して保険適用されています。一方、臓器ごとに施設条件・医師の資格条件が設けられており、ダヴィンチ導入の高いハードルになっています。当院は腹腔鏡手術、及び肝胆膵手術に重点を置いてきた経緯もあり（内視鏡外科技術認定医3名、肝胆膵高度技能専門医3名常勤）、主要臓器の導入条件を満たす事ができました。ダヴィンチを最も経済的、かつ効率的に導入出来る体制を検討した結果、消化管チーム・

肝胆膵チームの2体制で導入する方針といたしました。医療安全の確保を導入時の最重要課題とし、術式毎に高難度新規医療申請を行い、適応を厳格に遵守して導入いたしました。

令和5年2月の初症例を皮切りに、当院のダヴィンチ手術は着実に手術可能領域を拡げ、令和6年4月現在は6領域（胃、結腸、直腸、肝臓、膵臓、胆管）に対して施行可能な体制を整える事が出来ました。中でも、ダヴィンチによる膵頭十二指腸切除は群馬県内で当院が唯一の施行施設です。消化器外科医7名は全員ダヴィンチ手術の有資格者で（コンソール：術者資格医師4名、アシスタント：助手資格医師3名）、プロクター医師（指導資格医師）は申請中を含め2名となり、教育体制も整いつつあります。また、当院は全国的にも希な消化器外科単科での導入であるために、他科との競合無くダヴィンチをより多くの患者さんに治療選択肢として提供する事が可能です。

ダヴィンチは従来の腹腔鏡手術と異なり、内視鏡操作者を要せず、助手の役割も大きく変わり外科医師の負担軽減が期待されています。医師の働き方改革が強く推奨される昨今、ダヴィンチのメリットを活かした労働の効率化、及び労働改善に取り込みたいと思います。また、消化器外科医の減少が危惧される中、意欲ある若手外科医の確保は喫緊の課題です。本年より学会指導の技術認定制度の取得にも、ロボット支援手術が審査対象となりました。今後はダヴィンチの教育システムを確立し、若手外科医にコンソール医師の門戸を順次拡げていきます。

最後になりますが、我々は新しい技術を取り入れつつ多数の選択肢の中から、最善な手術を安心、安全、確実に提供できる様に今後も努めてまいります。お困りの事がありましたらお気軽に御相談ください。

ダヴィンチ症例の推移

